

令和8年度

会 報

第78号

静岡県産業教育振興会

令和8年度

定期総会

日時 令和8年7月8日（水）午前10時15分～

会場 静岡県立静岡農業高等学校 視聴覚室

静岡県産業教育振興会

令和 8 年度 静岡県産業教育振興会 定期総会

1 開会のことば

2 会長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 参加者紹介

5 議 事

第1号議案 令和7年度 事業報告及び決算報告承認の件

第2号議案 令和8年度 役員改選(案)承認の件

第3号議案 令和8年度 事業計画(案)及び予算(案)承認の件

6 連絡事項

7 静岡県教育委員会高校教育課所管事項説明

8 閉会のことば

令和8年度 静岡県産業教育振興会定期総会 会長挨拶（案）

静岡県産業教育振興会
会 長 岸田 裕之

静岡県産業教育振興会会長を務めております、静岡県商工会議所連合会会長の岸田です。「令和8年度定期総会」の開会にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。本日は、静岡県教育委員会の関係役職者様をはじめ、会員の皆様におかれましては、ご多用のところ、またご遠方からご出席を賜り心からお礼申し上げます。また、日頃から本会の活動に対しまして、格別のご理解とお力添えを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、現在の経済情勢に目を向けますと、中東情勢の緊迫化に伴いエネルギー価格や物流コストが高騰しているほか、ナフサ由来製品の流通に目詰まりが発生するなど、先行きへの不透明感が強まっております。一方で、今年の春闘においては3年連続で5%水準の賃上げが実現する見通しとなり、日本経済は「成長と分配の好循環」の定着に向けた、正念場を迎えております。

こうした中、中小企業を含む県内企業には、深刻化する人手不足を克服するため、DXの社会実装による徹底した生産性向上と、付加価値の高いビジネスへの転換が求められています。その原動力となるのは「人」であり、時代を切り拓く新たな感性と専門スキルを持った若手人材の育成は、もはや待ったなしの状況にあります。

こうした背景を受け、本年3月に静岡県産業教育審議会から「これからの時代に対応した産業教育の在り方」について答申がなされました。答申では、デジタル人材や新産業の創出に貢献できるスタートアップ人材の育成、さらには少子化が進む中での「地域産業を担う人材の確保」が重点課題として掲げられました。

教育現場においても、この答申の趣旨をいち早く反映し、生成AIの適切な利活用による「個別最適な学び」の深化や、地元企業をフィールドとした探究活動の充実が進んでおります。学校が「未来の担い手を育む拠点」としてその機能を最大化できるよう、我々産業界としても、これまで以上に積極的な伴走支援を行っていく決意であります。

本会は、産業界と教育界が緊密に連携し、答申で示されたビジョンを具現化するという、極めて重大な使命を担っております。静岡県の産業教育が、次世代を担う志高い人材を輩出し、地域社会の存続と発展の礎となりますよう、今後とも皆様方の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日の総会では、令和7年度の事業報告・決算ならびに令和8年度の事業計画・収支予算等についてお諮りいたしますので、よろしくご審議のほどお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

第 1 号議案

令和 7 年度 静岡県産業教育振興会事業報告

1 会 議 等

項 目	月 日	会 場	摘 要
(1) 静岡県産業教育振興会	5 月 8 日(木)	静岡農業高校	令和 6 年度会計監査
(2) 全国産業教育振興会連絡協議会	5 月 29 日(木)	全商会館	役員会、総会
(3) 産業教育振興中央会	5 月 29 日(木)	全商会館	産振中央会参与・学校代表委員会 議
(4) 静岡県産業教育振興会	7 月 8 日(火)	静岡農業高校	理事会・定期総会 第 1 回学校関係理事会
(5) 第 35 回全国産業教育フェア福島大会	10 月 25 日(土) 26 日(日)	ビッグパレットふく しま 他	作品展示、体験・実演、意見・研 究発表等
(6) 第 67 回全国産業教育振興大会	10 月 26 日(土)	郡山ビューホテルア ネックス	全国産業教育振興会関係者による 協議会
(7) 産業教育振興中央会	2 月 12 日(木)	オンライン開催	専門高校就職指導等研究協議会
(8) 静岡県産業教育振興会	2 月 5 日(木)	静岡農業高校	第 2 回学校関係理事会 御下賜金記念産業教育功労者表彰 伝達式
(9) 静岡県産業教育振興会	2 月 5 日(木)	静岡農業高校	企業経営者・専門高等学校連絡協 議会

2 産業教育振興中央会 研修・派遣等

- (1) 教員海外産業教育事情研修派遣(派遣国 スペイン)
令和 7 年 11 月 16 日(日)～11 月 22 日(土)・・・申請なし
- (2) 産業教育改善に関する特別研究助成(1 件 35,000 円)・・・1 件申請

3 静岡県産業教育振興会 産業教育教員の研修等に対する助成

- (1) 教員産業視察の助成・・・1 件 25,000 円

農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	計
3 件	0 件	1 件	0 件	3 件	0 件	7 件

- (2) 教員特別研究の助成・・・1 件 30,000 円

農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	計
5 件	0 件	1 件	0 件	1 件	0 件	7 件

- (3) 静岡県高等学校教育研究会関係部会への助成

(4) 本会会員高等学校が主管する各種大会及び全国研究会等開催への助成

全国 50,000 円 (0 件) 東海 30,000 円 (11 件)

大会種別	部会	助成対象大会名
東海	農業	第 76 回関東地区学校農業クラブ連盟 令和 7 年度静岡大会
	工業 (総合)	令和 7 年度東海地区高等学校総合学科高等学校長協会及び第 1 回研究協議会(6 月) 第 26 回東海地区高等学校総合学科教育研究大会及び令和 7 年度第 2 回東海地区総合学 科研究協議会(11 月)
	工業	第 24 回高校生ものづくりコンテスト東海大会 旋盤部門
	工業	令和 7 年度第 24 回高校生ものづくりコンテスト東海大会 (木材加工部門)
	工業	第 24 回高校生ものづくりコンテスト東海大会 電子回路組立部門
	工業	令和 7 年度高校生ものづくりコンテストプレ東海大会 シーケンス制御部門
	工業	令和 7 年度東海地区建築教育研究会理事会、総会並びに研究会(6 月) 令和 7 年度東海地区建築教育研究会協議会(1 月)
	工業	令和 7 年度東海地区工業高等学校長教育研究会 総会・研究協議会
	商業	第 47 回東海地区高等学校商業実務総合競技大会
	家庭	令和 7 年度全国高等学校長協会家庭部会 東海地区連絡・研究協議会
	福祉	第 10 回東海地区高校生介護技術コンテスト

(5) 中央会 教員海外産業教育事情研修派遣者への助成… 1 件 25,000 円 (申請なし)

4 御下賜金記念産業教育功労者表彰伝達式 令和 8 年 2 月 5 日 (木)

産業教育振興中央会の御下賜金記念行事による表彰者に対し表彰状授与

5 御下賜金記念専門高等学校優良卒業生選奨

産業教育振興中央会の御下賜金記念行事による表彰者に対し表彰状と記念品授与 (67 名)

6 企業経営者・専門高等学校連絡協議会 令和 8 年 2 月 5 日 (木)

産業教育振興会会員を対象とした講演会の実施

講師：株式会社 鈴生 (すずなり) 代表取締役社長 鈴木 貴博 様

7 令和 7 年度 会報 77 号の発行

静岡農業高校ホームページに本振興会のリンクを張り、コンテンツを掲載 (令和 7 年 9 月)

令和7年度 静岡県産業教育振興会会計決算書

一般会計

収入総額 2,992,472 円
支出総額 2,025,217 円
差引残額 967,255 円 (次年度へ繰越)

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
会費	1,987,000	1,939,860	△ 47,140	
学校会費	862,000	851,860	△ 10,140	3,000円×48校 40円×17,984人(全) 20円×184人(定)
事業家会費	1,125,000	1,088,000	△ 37,000	117団体(実業団体・実業家)からの会費
雑収入	750	2,362	1,612	預金利息
繰越金	1,050,250	1,050,250	0	前年度繰越金
合 計	3,038,000	2,992,472	△ 45,528	

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額 (A)	流用増減額	予算現額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
会議費	32,000	0	32,000	18,208	13,792	
総会費	30,000	0	30,000	18,208	11,792	総会用立札
役員会議費	2,000	0	2,000	0	2,000	
事務費	496,000	0	496,000	239,889	256,111	
旅費	10,000	0	10,000	920	9,080	監事旅費
事務諸費	480,000	0	480,000	238,969	241,031	通信費、印刷費、消耗品費等
雑費	6,000	0	6,000	0	6,000	
事業費	2,470,000	0	2,470,000	1,767,120	702,880	
産業見学等補助費	200,000	10,000	210,000	208,142	1,858	産業視察補助費
表彰費	470,000	0	470,000	264,466	205,534	記念品代、消耗品費等
会報発行費	40,000	0	40,000	0	40,000	
研究助成費	1,740,000	△ 10,000	1,730,000	1,289,512	440,488	部会助成費、大会助成費、特別研究助成費
視察費	10,000	0	10,000	0	10,000	
雑費	10,000	0	10,000	5,000	5,000	青少年育成会議会費
予備費	40,000	0	40,000	0	40,000	
予備費	40,000	0	40,000	0	40,000	
合 計	3,038,000	0	3,038,000	2,025,217	1,012,783	

産業教育積立金会計

種 類	令和6度末残高	令和7年度中増減	令和7年度末残高	備 考
産業教育振興積立金	2,190,295	3,255	2,193,550	預金利息
県産業教育振興会積立金	405,452	858	406,310	預金利息
合 計	2,595,747	4,113	2,599,860	

上記のとおり報告します。

令和8年3月31日 令和7年度静岡県産業教育振興会 会長 岸田 裕之

(監査報告)

上記の決算について、証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

令和8年4月27日 令和7年度静岡県産業教育振興会

監事 村松 文次

監事 望月 基希

第2号議案

令和8年度 静岡県産業教育振興会役員改選

役 名	職 名	氏 名	住 所
顧 問	静岡県知事	鈴木 康友	静岡市葵区追手町9-6
顧 問	静岡県教育委員会教育長	<u>前澤 綾子</u>	静岡市葵区追手町9-6
会 長	(一社)静岡県商工会議所連合会会長	岸田 裕之	静岡市葵区黒金町20-8
副 会 長	静岡県立静岡農業高等学校長	新林 章輝	静岡市葵区古庄3-1-1
理 事	(一社)静岡県商工会議所連合会専務理事・事務局長	<u>石川 眞巳</u>	静岡市葵区黒金町20-8
理 事	静岡県中小企業団体中央会理事	眞野 匡雄	静岡市葵区追手町44-1
理 事	静岡県商工会連合会専務理事	窪田 賢一	静岡市葵区追手町44-1
理 事	(一社)静岡県経営者協会専務理事	鈴木 良則	静岡市葵区追手町10-303
理 事	静岡県立科学技術高等学校長	大澤 貢	静岡市葵区長沼500-1
理 事	静岡県立静岡商業高等学校長	<u>中村 正義</u>	静岡市葵区田町7-90
理 事	静岡県立焼津水産高等学校長	沼里 智彦	焼津市焼津5-5-2
理 事	静岡県立清流館高等学校長	山梨 祥子	焼津市上新田29-1
理 事	静岡県立御殿場高等学校長	<u>野田 正人</u>	御殿場市御殿場192-1
理 事	城南静岡高等学校長	村上 紀彦	静岡市駿河区南八幡町1-1
監 事	島田商工会議所専務理事	<u>今村 重則</u>	島田市日之出町4-1
監 事	静岡県立田方農業高等学校長	<u>望月 基希</u>	田方郡函南町塚本961

※新役員は氏名欄にアンダーライン

第3号議案

令和8年度 静岡県産業教育振興会事業計画

1 会議等

項 目	月 日	会 場	摘 要
(1) 静岡県産業教育振興会	4月27日(月)	静岡農業高校	令和7年度会計監査
(2) 全国産業教育振興会連絡協議会	5月28日(木)	全商会館	役員会、総会
(3) 産業教育振興中央会	5月28日(木)	全商会館	産振中央会参与 学校代表委員会議
(4) 静岡県産業教育振興会	7月8日(水)	静岡農業高校	理事会・定期総会 第1回学校関係理事会
(5) 第36回全国産業教育フェア佐賀大会	10月24日(土) 25日(日)	SAGAアリーナ 他	作品展示、体験・実演、意見・研究発表等
(6) 第67回全国産業教育振興大会	10月24日(土)	ホテルグランデはがくれ	全国産業教育振興会関係者による 協議会
(7) 産業教育振興中央会	2月(予定)		専門高校就職指導等研究協議会
(8) 静岡県産業教育振興会	2月8日(月)	未定	御下賜金記念産業教育功労者表彰 伝達式 第2回学校関係理事会
(9) 静岡県産業教育振興会	2月8日(月)	未定	企業経営者・専門高等学校連絡協 議会

2 産業教育振興中央会 研修・派遣等

(1) 教員海外産業教育事情研修

派遣国 イタリア(ミラノ)

令和8年11月8日(日)～11月14日(土)・・・1件申請中

(2) 産業教育改善に関する特別研究助成(1件35,000円)・・・申請なし

3 静岡県産業教育振興会 産業教育教員の研修等に対する助成

(1) 教員産業視察の助成・・・1件25,000円

農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	合計
3件	1件	1件	0件	0件	1件	6件

(2) 教員特別研究の助成・・・1件30,000円

農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	合計
5件	0件	3件	0件	1件	0件	9件

(3) 静岡県高等学校教育研究会関係部会への助成

(4) 本会会員高等学校が主管する全国研究会等開催への助成

全国：50,000 円（0 件） 東海：30,000 円（7 件）

大会種別	部会	助成対象大会名
東海	工業	令和8年度東海地区建築教育研究会研究協議会
	工業	第25回高校生ものづくりコンテスト東海大会 電子回路組立部門
	工業	令和8年度高校生ものづくりコンテストプレ東海大会 シーケンス部門
	工業	令和8年度高校生ものづくりコンテスト東海大会 化学分析部門
	商業	令和8年度第20回東海地区高等学校生徒商業研究発表大会
	福祉	第11回東海地区高校生介護技術コンテスト
	水産	令和8年度関東・東海地区カッターレース大会

(5) 産振中央会 教員海外産業教育事情研修派遣者への助成・・・1 件 25,000 円

4 御下賜金記念産業教育功労者表彰伝達式 令和9年2月8日（月）

産業教育振興中央会の御下賜金記念行事による表彰者に対し表彰状授与

5 御下賜金記念専門高等学校優良卒業生選奨

産業教育振興中央会の御下賜金記念行事による表彰者に対し表彰状と記念品授与

6 企業経営者・専門高等学校連絡協議会 令和9年2月8日（月）

産業教育振興会会員を対象とした講演会の実施

7 令和8年度 会報78号の発行

静岡農業高校ホームページに本振興会のリンクを張り、コンテンツを掲載（令和8年9月頃予定）

令和8年度 静岡県産業教育振興会会計予算書（案）

一般会計

収入総額 2,903,000 円
 支出総額 2,903,000 円
 差引残額 0 円

収入の部

（単位：円）

科 目	予 算 額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
会費	1,935,000	1,987,000	△ 52,000	
学校会費	847,000	862,000	△ 15,000	3,000円×48校 40円×17,490人(全) 20円×170人(定)
事業家会費	1,088,000	1,125,000	△ 37,000	5,000円×1口(実業団体)・4,000円×1口(実業家) ※115団体を見込
雑収入	745	750	△ 5	預金利息等
繰越金	967,255	1,050,250	△ 82,995	前年度繰越金
合 計	2,903,000	3,038,000	△ 135,000	

支出の部

（単位：円）

科 目	予 算 額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
会議費	32,000	32,000	0	
総会費	30,000	30,000	0	総会用消耗品、お茶代等
役員会議費	2,000	2,000	0	資料印刷費等
事務費	466,000	496,000	△ 30,000	
旅費	10,000	10,000	0	監事旅費等
事務諸費	450,000	480,000	△ 30,000	通信費、印刷費、消耗品費等
雑費	6,000	6,000	0	
事業費	2,380,000	2,470,000	△ 90,000	
産業見学等補助費	220,000	200,000	20,000	産業視察助成費、全産協負担金等
表彰費	450,000	470,000	△ 20,000	会場借上費、記念品代、消耗品費等
会報発行費	40,000	40,000	0	会報印刷費等
研究助成費	1,650,000	1,740,000	△ 90,000	部会助成費、大会助成費、特別研究助成費等
視察費	10,000	10,000	0	大会参加費等
雑費	10,000	10,000	0	青少年育成会議会費
予備費	25,000	40,000	△ 15,000	
予備費	25,000	40,000	△ 15,000	
合 計	2,903,000	3,038,000	△ 135,000	

※科目間の流用を認める。

産業教育積立金会計

（単位：円）

種 類	令和7年度末残高	令和8年度中増減	令和8年度末残高	備 考
産業教育振興積立金	2,193,550	3,450	2,197,000	預金利息
県産業教育振興会積立金	406,310	690	407,000	預金利息
合 計	2,599,860	4,140	2,604,000	

令和8年度公益財団法人産業教育振興中央会 学校会員名簿

都道府県 (静岡県)

番号	設置者	学校名	郵便番号	所在地	TEL・FAX		規模
1	県	静岡県立下田高等学校南伊豆分校	415-0306	賀茂郡南伊豆町石井58	0558-62-0103	0558-62-2799	○
2	県	静岡県立田方農業高等学校	419-0124	田方郡函南町塚本961	055-978-2265	055-978-2267	
3	県	静岡県立富岳館高等学校	418-0073	富士宮市弓沢町732	0544-27-3205	0544-26-8849	
4	県	静岡県立駿河総合高等学校	422-8032	静岡市駿河区有東3-4-17	054-260-6688	054-288-5550	
5	県	静岡県立静岡農業高等学校	420-0812	静岡市葵区古庄3-1-1	054-261-0111	054-264-2226	
6	県	静岡県立藤枝北高等学校	426-0016	藤枝市郡970	054-641-2400	054-641-2827	
7	県	静岡県立小笠高等学校	439-0022	菊川市東横地1222-3	0537-35-3181	0537-36-4690	
8	県	静岡県立遠江総合高等学校	437-0215	周智郡森町森2085	0538-85-6000	0538-85-6111	
9	県	静岡県立天竜高等学校	431-3314	浜松市天竜区二俣町二俣601	053-925-3139	053-925-7422	
10	県	静岡県立磐田農業高等学校	438-8718	磐田市中央168	0538-32-2161	0538-32-6691	
11	県	静岡県立浜松湖北高等学校	431-2213	浜松市浜名区引佐町金指1428	053-542-0016	053-542-1466	
12	県	静岡県立浜松大平台高等学校	432-8686	浜松市中央区大平台4-25-1	053-482-1011	053-485-8111	
13	県	静岡県立伊豆総合高等学校	410-2401	伊豆市牧之郷892	0558-72-3322	0558-72-1955	
14	県	静岡県立沼津工業高等学校	410-0822	沼津市下香貫八重129-1	055-931-0343	055-934-3016	
15	県	静岡県立吉原工業高等学校	417-0847	富士市比奈2300	0545-34-1045	0545-38-3018	
16	県	静岡県立科学技術高等学校	420-0813	静岡市葵区長沼500-1	054-267-1100	054-267-1123	
17	県	静岡県立島田工業高等学校	427-8541	島田市阿知ヶ谷201	0547-37-4194	0547-37-1177	
18	県	静岡県立掛川工業高等学校	436-0018	掛川市葵町15-1	0537-22-7255	0537-22-6950	
19	県	静岡県立浜松工業高等学校	433-8567	浜松市中央区初生町1150	053-436-1101	053-437-9988	
20	県	静岡県立浜松城北工業高等学校	430-0906	浜松市中央区住吉5-16-1	053-471-8341	053-471-4662	
21	県	静岡県立伊豆伊東高等学校	414-0051	伊東市吉田748-1	0557-44-1111	0557-44-0011	
22	県	静岡県立裾野高等学校	410-1118	裾野市佐野900-1	055-992-1125	0559-92-1016	
23	県	静岡県立沼津商業高等学校	411-0917	駿東郡清水町徳倉1205	055-931-7080	055-934-3360	
24	県	静岡県立富士宮北高等学校	418-0053	富士宮市宮北町230	0544-27-2533	0544-23-8021	
25	県	静岡県立静岡商業高等学校	420-0068	静岡市葵区田町7-90	054-255-6241	054-255-9241	
26	県	静岡県立島田商業高等学校	427-0058	島田市祇園町8707	0547-37-4167	0547-35-2341	
27	県	静岡県立相良高等学校	421-0596	牧ノ原市波津1700-3	0548-52-1133	0548-52-1135	○
28	県	静岡県立袋井商業高等学校	437-0061	袋井市久能2350	0538-42-2285	0538-42-6728	
29	県	静岡県立磐田西高等学校	438-0078	磐田市中央2680-1	0538-34-5217	0538-37-8364	
30	県	静岡県立浜松商業高等学校	432-8004	浜松市中央区文丘町4-11	053-471-3351	053-475-2109	
31	県	静岡県立浜松東高等学校	431-3105	浜松市中央区笠井新田町1442	053-434-4401	053-435-0620	
32	県	静岡県立焼津水産高等学校	425-0026	焼津市焼津5-5-2	054-628-6148	054-628-1556	
33	県	静岡県立御殿場高等学校	412-0028	御殿場市御殿場192-1	0550-82-0111	0550-83-3154	
34	県	静岡県立富士宮東高等学校	418-0022	富士宮市小泉1234	0544-26-4177	0544-26-0007	○
35	県	静岡県立清流館高等学校	421-0206	焼津市上新田292-1	054-622-3411	054-622-3472	○
36	県	静岡県立磐田北高等学校	438-0086	磐田市見付2031-2	0538-32-2181	0538-37-8354	○
37	市	富士市立高等学校	417-0847	富士市比奈1654	0545-34-1024	0545-38-3223	
38	市	静岡市立清水桜が丘高等学校	424-8752	静岡市清水区桜が丘町7-15	054-353-5388	054-354-1466	
39	私	飛龍高等学校	410-0013	沼津市東熊堂491	055-921-7942	055-924-6998	○
40	私	静清高等学校	426-0007	藤枝市潮87	054-641-6693	054-644-8715	
41	私	加藤学園高等学校	410-0022	沼津市大岡自由ヶ丘1979	055-921-0347	055-924-4733	
42	私	清水国際高等学校	424-0809	静岡市清水区天神1-4-1	054-366-4155	054-365-9137	
43	私	城南静岡高等学校	422-8074	静岡市駿河区南八幡町1-1	054-285-6156	054-284-0660	
44	私	浜松修学舎高等学校	430-0851	浜松市中央区向宿2-20-1	053-461-7356	053-461-7559	
45	私	知徳高等学校	411-0944	駿東郡長泉町竹原354	055-975-0080	055-976-0735	
46	私	静岡女子高等学校	422-8076	静岡市駿河区八幡3-6-1	054-285-2274	054-282-2757	
47	私	藤枝順心高等学校	426-0067	藤枝市前島2-3-1	054-635-1311	054-635-6119	○
48	私	浜松啓陽高等学校	433-8101	浜松市中央区三幸町421	053-420-0431	053-420-0434	

注 1.「番号」欄は、整理番号として付して下さい。

2.「規模」欄は、小規模校について○印を付して下さい。

令和8年度 実業団体、実業家及び有志者名簿

No.	事業所名	〒	所在地	電話
1	内藤商事(株)	415-0303	賀茂郡南伊豆町下賀茂259の3	0558-62-0123
2	丸陣商事(株)	415-0304	賀茂郡南伊豆町加納530の4	0558-62-0214
3	(株)伊鈴商会	415-0035	下田市東本郷2-7-24	0558-22-1096
4	いとう漁業協同組合	414-0043	伊東市新井1丁目1-18	0557-37-3181
5	伊東商工会議所	414-0028	伊東市銀座元町6-11	0557-37-2500
6	ナガヤ(株)	414-0027	伊東市竹の内2丁目7-35	0557-37-2014
7	(株)野村商店	414-0053	伊東市荻578-216	0557-44-6600
8	(有)上嶋スポーツ	414-0045	伊東市玖須美元和田720-143	0557-36-7867
9	スルガ銀行(株)伊東支店	414-0027	伊東市竹の内1丁目4-3	0557-37-0080
10	(有)太田商店	414-0011	伊東市松川町3-4	0557-37-2752
11	(株)サガミヤ	414-0027	伊東市竹の内2丁目7-21	0557-37-0058
12	(有)マルワ洋服店	414-0014	伊東市弥生町3-1	0557-37-4361
13	(有)森口洋服店	414-0027	伊東市竹の内2-2-23	0557-37-2718
14	(株)静岡銀行伊東支店	414-0028	伊東市銀座元町2-13	0557-37-4141
15	大木乳業(株)	410-3302	伊豆市土肥939	0558-98-1139
16	青木興業(株)	410-3302	伊豆市土肥676	0558-98-1315
17	イハラサイエンス(株)	410-2221	伊豆の国市南江間2176-28	055-946-0500
18	ナガセダイガグノスティックス(株)大仁工場	410-2321	伊豆の国市三福632-1	0558-76-7010
19	(株)電業社機械製作所	411-8560	三島市三好町3番27号	055-975-8221
20	伊豆箱根鉄道(株)	411-8533	三島市大場300番地	055-977-1203
21	ABB日本ベーレー(株)	410-2193	伊豆の国市原木511	055-949-3311
22	東栄電機(株)	411-8510	三島市松本131	055-977-4111
23	富士伊豆農業協同組合 伊豆の国地区本部	410-2194	伊豆の国市四日町241-1	055-949-3211
24	函南町商工会	419-0114	田方郡函南町仁田68-2	055-978-3995
25	(株)寺岡製作所函南工場	419-0122	田方郡函南町上沢200	055-978-2552
26	函南東部農業協同組合	419-0105	田方郡函南町丹那367-4	055-974-0011
27	富士伊豆農業協同組合 三島函南地区本部	411-0801	三島市谷田字城の内141-1	055-971-8211
28	らんちてい熱函店	419-0124	田方郡函南町大土肥字石原88-1	055-979-1951
29	(株)勝又新聞店	412-0043	御殿場市新橋1606-1	0550-82-0153
30	せいの写真スタジオ	412-0043	御殿場市新橋1975-13	0550-82-0220
31	河合光学(株)	412-0046	御殿場市保土沢1157-584	0550-89-5481
32	(有)亀屋書店	412-0045	御殿場市川島田654	0550-82-0374
33	(株)オサコー建設	412-0046	御殿場市保土沢1157-599	0550-89-3232
34	矢崎総業(株)Y-CITY	410-1194	裾野市御宿1500	055-965-4017
35	矢崎部品(株)裾野製作所	410-1107	裾野市御宿1500	055-965-0360
36	渡辺建設(株)	410-1123	裾野市富沢394-1	055-992-0030
37	(株)佐藤建設	410-0302	沼津市東椎路477	055-925-3100
38	東洋電産(株)	410-0873	沼津市大諏訪字八反田575番地	055-923-7211
39	山旺建設工業(株)	410-0302	沼津市東椎路34	055-973-1055
40	(有)大橋	410-0065	沼津市花園町2-4	055-921-8943

41	大岡建設工業(株)	410-0011	沼津市岡宮1250-6	055-925-0891
42	(株)静岡銀行沼津支店	410-0801	沼津市大手町4丁目3番45号	055-962-8111
43	(株)静岡中央銀行	410-0801	沼津市大手町4丁目76	055-962-2901
44	スルガ銀行(株)	410-8689	沼津市通横町23	055-962-5800
45	沼津商工会議所	410-0046	沼津市米山町6番5号	055-921-1000
46	沼津信用金庫	410-8610	沼津市大手町5丁目6番16号	055-962-5200
47	沼津通運倉庫(株)	410-0805	沼津市白銀町1番地1	055-963-0416
48	(株)マルサン書店	410-0055	沼津市高島本町13-4	055-922-8822
49	近藤鋼材(株)	410-0058	沼津市沼北町2-2-16	055-925-1950
50	(有)竜南印刷	410-0318	沼津市平沼754-1	055-966-5515
51	山本建設(株)	411-0832	三島市南二日町8番39号	055-975-4488
52	三島商工会議所	411-8644	三島市一番町2-29	055-975-4441
53	(株)カネコ	417-0011	富士市鈴川本町2-1	0545-33-1906
54	(株)小林製作所	416-0921	富士市水戸島2-1-1	0545-61-2400
55	セイススポーツ	418-0057	富士宮市淀川町1-24	0544-27-7138
56	(株)ダイセル 富士工場	416-8533	富士市宮島973	0545-61-4901
57	王子エフテックス(株)東海工場	421-3306	富士市中之郷1157-1	0545-81-4633
58	松本工業(株)	417-0051	富士市吉原1丁目11番8号	0545-52-3030
59	(株)吉原電設	417-0001	富士市今泉2丁目4番15号	0545-52-1237
60	ビヨンス(株)	417-8575	富士市大淵2429-3	0545-35-0345
61	三菱商事ライフサイエンス(株)	417-0036	富士市中河原93	0545-52-6181
62	旭化成(株)富士支社	416-0934	富士市鮫島2-1	0545-62-2061
63	合資会社藤太郎本店	418-0066	富士宮市大宮町8-3	0544-26-4118
64	オブリック(株)	418-0075	富士宮市田中町543	0544-24-2211
65	(有)鈴一建設	418-0004	富士宮市三園平159	0544-27-0046
66	(株)マコト電機	418-0063	富士宮市若の宮町387	0544-27-3737
67	(株)タケウチ	418-0013	富士宮市大岩522-2	0544-24-0123
68	(有)十字屋	418-0056	富士宮市西町4-1	0544-23-1717
69	(株)プランニング富士	417-0056	富士市日乃出町86	0545-53-3430
70	(株)大石組	418-0073	富士宮市弓沢町635	0544-26-0010
71	関東ノーサン商事(株)	300-0844	茨城県土浦市乙戸町35番地	029-841-3708
72	(株)ワークマン富士厚原支店	419-0201	富士市厚原字道下16-1	0545-72-0199
73	農業組合法人富士農場サービス	418-0112	富士宮市北山5247-34	0544-29-0555
74	富士信用金庫富士岡支店	417-0841	富士市富士岡1457-7	0545-34-0405
75	(有)旭タイプ印刷	417-0862	富士市石坂383-1	0545-21-0500
76	(株)エンチャー	417-0052	富士市中央町2-12-12	0545-57-0808
77	(株)東平商会	411-0943	駿東郡長泉町下土狩72-1	055-986-8611
78	ダイハツ沼津販売(株)	410-0822	沼津市下香貫字上障子373	055-933-2835
79	(株)ゼプロチュービング	410-1125	静岡県裾野市富沢518-1	055-957-1009
80	月島発条(株)三島工場	411-0931	駿東郡長泉町東野八分平50-11	055-987-9055
81	岳南光機株式会社	411-0932	駿東郡長泉町南一色字大峯886-19	055-986-4484
82	丸善工業(株)	411-0824	三島市長伏155-8	055-977-2140

83	ZACROS(株)静岡事業所	410-0306	沼津市大塚248	055-966-1022
84	特種東海製紙(株)	411-0945	駿東郡長泉町本宿437	055-988-1115
85	(有)津田文具	410-0055	沼津市高島本町14-25	055-921-2986
86	(株)Jオイルミルズ静岡事業所	424-0824	静岡市清水区新港町2	054-351-2733
87	大和製罐(株)清水工場	424-8648	静岡市清水区中之郷3丁目6の1	054-345-2111
88	日本ケミカル工業(株)	424-0055	静岡市清水区吉川813	054-345-3471
89	木内建設(株)	422-8633	静岡市駿河区国吉田1-7-37	054-264-7111
90	中部電力パワーグリッド(株)静岡支社	420-0064	静岡市葵区本通2丁目4-1	054-273-9003
91	昭和設計(株)	420-0006	静岡市葵区若松町41番の1	054-252-1820
92	(株)やまだ学生服	420-0839	静岡市葵区鷹匠1丁目4-10	054-255-2551
93	焼津商工会議所	425-0026	焼津市焼津4丁目15-24	054-628-6251
94	静岡商工会議所	420-0851	静岡市葵区黒金町20の8	054-253-5111
95	藤枝商工会議所	426-0025	藤枝市藤枝4丁目7番16号	054-641-2000
96	浜松商工会議所	432-8501	浜松市中央区東伊場2-7-1	053-452-1111
97	熱海商工会議所	413-0014	熱海市渚町8-2	0557-81-9251
98	富士商工会議所	417-0057	富士市瓜島町82	0545-52-0995
99	静岡県中小企業団体中央会	420-0853	静岡市葵区追手町44番地-1	054-254-1511
100	磐田商工会議所	438-0078	磐田市巾着田281-1	0538-32-2261
101	静岡県商工会連合会	420-0853	静岡市葵区追手町44-1	054-255-8080
102	(株)村上測機	427-0024	島田市横井3丁目6-3	0547-35-2803
103	丸山販売(株)	420-0816	静岡市葵区沓谷5丁目4-3	054-261-8933
104	東部電機工業(株)	420-0804	静岡市葵区竜南3丁目8-27	054-246-3343
105	(株)モンパルナス	420-0884	静岡市葵区大岩本町12-12	054-245-3301
106	(株)江崎書店	420-0031	静岡市葵区呉服町2丁目6-8	054-254-4481
107	(株)建装	420-0922	静岡市葵区流通センター6番2号	054-297-5140
108	(株)ヤマナシ	420-0856	静岡市葵区駿府町1-44	054-253-0585
109	(株)ハッコウスポーツ	420-0856	静岡市葵区駿府町1-31	054-253-1338
110	(株)セブン自動車工業	420-0812	静岡市葵区古庄4-9-25	054-261-3651
111	ジャパンビバレッジ静岡支店	422-8037	静岡市駿河区下島200-2	054-237-1311
112	(有)杉山金物店	420-0816	静岡市葵区沓谷5丁目49-7	054-261-5853
113	コカコーラセントラルジャパン(株)VM静岡山梨販売部静岡支店	421-1221	静岡市葵区牧ヶ谷2357	054-278-6311
114	東海ビバレッジサービス(株)静岡支店	424-0013	静岡市清水区下野緑町4-24	054-365-3422
115	(株)アロマイメージ	422-8034	静岡市駿河区高松2-1-1	054-238-8181
116	(有)飯塚印刷	420-0874	静岡市葵区辰起町4番21号	054-271-6688
117	静岡信用金庫	420-0033	静岡市葵区昭和町2-1	054-254-8881
118	日本レーベル印刷(株)	422-8666	静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号	054-262-1111
119	(株)アオキ	422-8045	静岡市駿河区西島885-3	054-282-0998
120	静岡放送(株)	422-8033	静岡市駿河区登呂3丁目1-1	054-284-8910
121	(株)落合造園	422-8033	静岡市駿河区登呂1丁目20-17	054-285-4928
122	福一漁業(株)	425-0021	焼津市中港5丁目9-25	054-627-1211
123	(株)いちまる	425-0021	焼津市中港2丁目5-13	054-628-2141
124	東洋水産(株)焼津工場	425-0052	焼津市田尻1268	054-624-9111

125	(株)カネボシ	425-0065	焼津市惣右衛門16	054-624-2158
126	(株)丸又	425-0035	焼津市東小川1丁目4-3	054-627-1161
127	大坪水産(株)	421-0212	焼津市利右衛門391-1	054-664-2442
128	科研製薬(株)静岡工場	426-8646	藤枝市源助301	054-635-2290
129	前田書店	426-0018	藤枝市本町2-5-7	054-641-0643
130	大井川農業協同組合	426-8661	藤枝市緑の丘1番地の1	054-646-5111
131	静岡資材(株)	420-0054	静岡市葵区南安倍1丁目8-14	054-205-2210
132	(株)ユニフォームセンター	426-0025	藤枝市藤枝4丁目8-13	054-643-4686
133	川崎工業(株)本社菊川工場	439-0031	菊川市加茂1131	0537-36-5123
134	(株)島田書店	427-0048	島田市旗指499の5	0547-35-6074
135	富士鋼業(株)	426-8510	藤枝市仮宿1357番地	054-643-3221
136	AGCテクノグラス(株)	421-0302	榛原郡吉田町川尻3583-5	0548-32-1211
137	日本モレックス合同会社静岡工場	421-0301	榛原郡吉田町住吉1351-2	0548-32-2552
138	(株)三共製作所静岡事業所	439-0018	菊川市本所2290	0537-36-2231
139	日機装(株)技術開発研究所	421-0496	牧之原市静谷498番地の1	0548-22-5801
140	(株)トーエネック静岡支店	420-0029	静岡市葵区研屋町51	054-273-4350
141	大河原運送(株)	427-0024	島田市横井2丁目22番35号	0547-37-7111
142	カワサキ機工(株)	436-0005	掛川市伊達方字滑川810の1	0537-27-1725
143	サカイ産業(株)	427-8512	島田市細島1349-1	0547-35-2727
144	桜井資源(株)	427-0047	島田市中溝町2560-1	0547-37-6130
145	(株)静岡カントリー島田ゴルフコース	427-0107	島田市船木3500	0547-38-1313
146	島田掛川信用金庫	436-8651	掛川市亀の甲2丁目203	0537-24-6711
147	西静岡ヤクルト販売(株)	427-0018	島田市旭1丁目11-1	0547-37-6248
148	しずおか焼津信用金庫	420-0838	静岡市葵区相生町1番1号	054-247-1151
149	矢崎計器(株)島田製作所	427-8555	島田市横井1丁目7-1	0547-36-4111
150	サンエムパッケージ(株)	428-0009	島田市大代1086-1	0547-45-4125
151	(株)白井産業	427-8711	島田市御請45-1	0547-35-3331
152	八木産業(株)	421-0305	榛原郡吉田町大幡1364-1	0548-32-4123
153	鶴屋水産(株)	421-0601	御前崎市御前崎12-16	0548-63-5300
154	川口興産(株)	421-0602	御前崎市白羽6361	0548-63-3321
155	(株)榛南総合家具センター	421-0532	牧之原市地頭方111-1	0548-58-0805
156	(有)富士物産	421-0524	牧之原市須々木872-1	0548-52-0468
157	布施書店カルチャープラント(有)	421-0522	牧之原市相良85-2	0548-52-0026
158	フォト&スタジオ写真のスギヤマ	421-0526	牧之原市大沢1丁目72	0548-52-4967
159	(株)伊藤園 生産本部 静岡相良工場	421-0516	牧之原市女神21	0548-54-0311
160	小山紙店	421-0523	牧之原市波津711-1	0548-52-0022
161	ハイナン農業協同組合	421-0422	牧之原市静波73-5	0548-22-8000
162	税理士法人ヴォヤージュ	421-0422	牧之原市静波1747-40	0548-22-6196
163	(株)トツカ	421-0523	牧之原市波津3丁目60	0548-52-6330
164	(株)清水銀行	424-0809	静岡市清水区天神1丁目8-25	054-353-5169
165	鈴与(株)	424-8703	静岡市清水区入船町11-1	080-2635-5163
166	はごろもフーズ(株)	422-8057	静岡市駿河区南町11番1号 静銀・あいち銀・静岡駅南ビル3F	054-288-5200

167	フジ日本(株)	424-0924	静岡市清水区清開1丁目4-10	054-334-5353
168	(株)天野回漕店	424-0943	静岡市清水区港町2丁目9-5	054-353-2151
169	清和海運(株)	422-8061	静岡市駿河区森下町1-35 静岡MY77-3階	054-288-2741
170	あいネットグループ	422-8065	静岡市駿河区宮本町8-10	054-285-1414
171	(株)四葉商会	424-0817	静岡市清水区銀座14-13	054-365-2151
172	中源被服工業(株)	424-0943	静岡市清水区港町2丁目6-21	054-352-0111
173	(株)万栄堂	424-0815	静岡市清水区江尻東1-2-33	054-366-5204
174	(株)静岡銀行駅南支店	422-8067	静岡市駿河区南町11-1	054-281-1300
175	(株)大丸松坂屋百貨店松坂屋静岡店	420-8560	静岡市葵区御幸町10-2	050-1783-0000
176	(株)システムプランニング	420-0831	静岡市葵区水落町6-10	054-246-1776
177	(有)イケガヤ	426-0034	藤枝市駅前2-8-5	054-641-0649
178	(有)フォワード	426-0003	藤枝市下当間53-3	054-645-1455
179	(株)柏屋	426-0034	藤枝市駅前2-9-2	054-643-5432
180	(株)コハマ	425-0027	焼津市栄町5-15-3	054-627-1555
181	靴と雨具カタヤマ	426-0018	藤枝市本町1-4-33	054-641-1771
182	(株)静岡銀行藤枝支店	426-0017	藤枝市大手1丁目22番30号	054-641-0750
183	ウスイススポーツ	426-0018	藤枝市本町1-8-6	054-643-9132
184	静岡菅公学生服(株)	411-0912	駿東郡清水町卸団地182番地	055-971-8118
185	(有)増田機工	436-0008	掛川市千羽388	0537-27-0971
186	日東工業(株)菊川工場	439-0037	菊川市西方3	0537-35-3211
187	(株)川北電気	436-0074	掛川市葛川475-3	0537-24-1123
188	(株)榛葉鉄工所 掛川工場	436-1432	掛川市上土方工業団地29-37	0537-74-5901
189	つばい工業(株)	436-0042	掛川市二瀬川4-21	0537-23-2228
190	(株)協立メンテナンスサービス	436-0028	掛川市亀の甲2丁目9-30	0537-24-3523
191	掛川商工会議所	436-0079	掛川市掛川551-2	0537-22-5151
192	(有)石山商店	439-0019	菊川市半済3134	0537-35-2201
193	落合刃物工業(株)	439-0037	菊川市西方58	0537-36-2161
194	遠州夢咲農業協同組合	437-1514	菊川市下平川6265番地	0537-73-5111
195	(株)ヨシダ	436-0053	掛川市弥生町196	0537-24-2111
196	新栄事務機(株)	435-0048	浜松市中央区上西町25-5	053-463-9159
197	(有)黒田金物店	439-0019	菊川市半済1673-8	0537-36-4351
198	(有)いずか書店	437-0215	周智郡森町森298-2	0538-85-2138
199	(有)鈴木石油	437-0215	周智郡森町森2-1	0538-85-2717
200	(有)秋山新聞店	437-0215	周智郡森町森574-1	0538-85-2252
201	(株)遠鉄自動車学校遠鉄磐田自動車学校	438-0086	磐田市見付5015	0538-32-7200
202	(株)掛川自動車学校	436-0043	掛川市大池655	0537-22-7251
203	(株)静岡銀行袋井支店	437-0027	袋井市高尾町10-3	0538-42-3131
204	静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所	437-0056	袋井市小山219	0538-42-4146
205	日本紙工業(株)袋井工場	437-0012	袋井市国本1157の1	0538-42-4191
206	早川写真館	437-0024	袋井市三門町3-4	0538-42-4009
207	丸明建設(株)	437-0027	袋井市高尾町6-21	0538-43-2221
208	(株)浜松自動車学校遠鉄袋井自動車学校	437-1121	袋井市諸井1238	0538-23-2355

209	(株)佐野	437-0064	袋井市川井865-4	0538-42-2156
210	東海物産(株)袋井工場	437-0012	袋井市国本2391	0538-42-1285
211	ニチアス(株)袋井工場	437-0023	袋井市高尾1980	0538-42-3151
212	(有)安間書店	437-0026	袋井市袋井139	0538-43-2323
213	ポーラ化成工業(株)袋井工場	437-8765	袋井市愛野1234	0538-42-7111
214	(株)山福	431-3314	浜松市天竜区二俣町二俣2111	053-926-2855
215	乗松建設(株)	438-0113	磐田市新開440	0539-62-2020
216	(有)アツミ商会	431-3311	浜松市天竜区二俣町阿蔵155-1	053-926-2225
217	石川建設(株)	438-0071	磐田市今之浦5丁目1-1	0538-36-0021
218	遠州中央農業協同組合	438-0086	磐田市見付3599-1	0538-36-7002
219	(株)磐田谷島屋	438-0077	磐田市国府台58-2	0538-35-5778
220	(株)山本産業	438-0833	磐田市弥藤太島532	0538-32-9211
221	高砂フードプロダクツ(株)	437-1115	袋井市湊4207-2	0538-23-3411
222	吉田測量設計(株)	435-0004	浜松市中央区中野町317-1	053-422-3040
223	ニクセン(株)	438-0816	磐田市宮之一色988-3	0538-34-6520
224	(株)セントラルスポーツ	438-0078	磐田市中泉375	0538-36-0360
225	(株)マルニシ鋼機	438-0045	磐田市上岡田430番地の1	0538-34-3111
226	第一工業(株)	431-3112	浜松市中央区大島町955-9	053-433-1111
227	(株)ユタカ技研	431-3194	浜松市中央区豊町508番地の1	053-433-4111
228	とびあ浜松農業協同組合	431-3193	浜松市中央区有玉南町1975	053-476-3112
229	(株)遠鉄自動車学校 浜松自動車学校	435-0046	浜松市中央区丸塚町1	053-461-9221
230	総合自動車学校	435-0016	浜松市中央区和田町700	053-461-6633
231	名鉄観光サービス(株)静岡支店	422-8067	静岡市駿河区南町18-1サウスポット静岡8F	054-286-5681
232	(株)三方原農園	430-0942	浜松市中央区元浜町36-4	053-471-3376
233	日本形染(株)	430-0913	浜松市中央区船越町26番1号	053-464-2131
234	サクライ写真スタジオ	430-0942	浜松市中央区元浜町33-35	053-478-2800
235	一般社団法人浜松建設業協会	432-8022	浜松市中央区山手町15-19	053-454-8288
236	神谷建設(株)	432-8023	浜松市中央区鴨江2丁目35-24	053-454-4336
237	(株)金指商会	432-8055	浜松市中央区卸本町2000-2	053-441-0111
238	本田技研工業(株)浜松製作所	433-8501	浜松市中央区葵東1丁目13-1	053-439-2011
239	明光電気(株)	435-0041	浜松市中央区北島町25	053-421-4611
240	浜松ホトニクス(株)	430-8587	浜松市中央区砂山町325-6日本生命浜松駅前ビル	053-452-2141
241	(株)伊勢屋	430-0807	浜松市中央区佐藤1-40-28	053-463-5111
242	遠州信用金庫 積志・半田支店	431-3125	浜松市中央区半田山5丁目2-15	053-432-1151
243	(株)キャンパス	435-0046	浜松市中央区丸塚町160-1	053-465-5225
244	(有)都田印刷	431-2102	浜松市浜名区都田町9636の13	053-428-2193
245	(株)フクダサインボード	433-8105	浜松市北区三方原町930-1	053-437-0777
246	画創清水	430-0942	浜松市中央区元浜町31-3	053-471-0635
247	(株)成興技研	431-1111	浜松市中央区伊左地町6916	053-486-6171
248	シンワ設備(株)	435-0048	浜松市中央区上西町5-1	053-464-3211
249	(株)神津製作所	431-2103	浜松市浜名区新都田4-5-2	053-484-1001
250	栄電気工業(株)	430-0947	浜松市中央区松城町200-6	053-454-8371

251	(株)コーリツ	438-0801	磐田市高見丘1221番地	0538-38-3700
252	ダイバックス(株)	433-8104	浜松市中央区東三方町467番地	053-439-7111
253	(株)アーレスティダイモールド浜松	431-1104	浜松市中央区桜台5-3-10	053-436-1711
254	浜松機材(株)	430-0907	浜松市中央区高林5-3-28	053-471-0211
255	(株)不二	432-8047	浜松市中央区神田町1179	053-441-1561
256	(株)ヤマザキ	431-3121	浜松市中央区有玉北町489-23	053-434-3020
257	(株)クラベ	432-8521	浜松市中央区高塚町4830	053-447-7111
258	(株)メイセイ	430-0907	浜松市中央区高林5-9-13	053-472-4533
259	榎本(株)	430-8580	浜松市中央区板屋町562	053-453-5177
260	須山建設(株)	432-8562	浜松市中央区布橋2丁目6-1	053-471-0321
261	(株)アドシステム	433-8122	浜松市中央区上島3丁目23-20	053-460-0511
262	(株)スクロール	430-0807	浜松市中央区佐藤2丁目24-1	053-464-1123
263	浜松倉庫(株)	430-8691	浜松市中央区中央3丁目8-35	053-453-0151
264	(株)谷島屋	430-0939	浜松市中央区連尺町309-1	053-454-7765
265	キンパラ(株)	438-0086	磐田市見付1963-1	0538-35-5404
266	三和事務機(株)	435-0054	浜松市中央区早出町1221-3	053-464-3326
267	いなさ酪農業協同組合	431-1303	浜松市浜名区細江町三和744-1	053-522-1958
268	アマノ(株)細江事業所	431-1305	浜松市浜名区細江町気賀8123	053-522-0951
269	安間書店	431-2212	浜松市浜名区引佐町井伊谷1099-2	053-542-0043
270	(株)戸田建設	431-2222	浜松市浜名区引佐町黒淵193-1	053-543-0114
271	株式会社ジェイテクトコラムシステム	431-0431	湖西市鷺津2028	053-575-2716
272	(有)マルイ	431-2212	浜松市浜名区引佐町井伊谷746-5	053-542-0112
273	(株)丸順	431-2102	浜松市浜名区都田町9639-1	053-428-8855
274	サンビック(株)細江工場	431-1304	浜松市浜名区細江町中川1920	053-522-1011
275	(株)池田屋商店	431-1304	浜松市浜名区細江町中川5655	053-522-1017
276	東進印刷	431-1305	浜松市浜名区細江町気賀1382-3	053-522-0612
277	菱和設備(株)	420-0047	静岡市葵区清閑町14-5	054-254-8321
278	(株)フルーツパーク浜松	430-0903	浜松市中央区助信町45-1	053-428-6000
279	(有)洋装長谷川	430-0925	浜松市中央区寺島町152-5	053-452-8373
280	カ・コーセントラルジャパン(株)VM浜松支店	433-8119	浜松市中央区高丘北1丁目66-10	053-437-0350
281	(株)アクティス	431-2103	浜松市浜名区新都田5丁目15番25号	053-428-0310
282	(株)みのり	433-8123	浜松市中央区幸1丁目1-7	053-473-7238
283	NEC静岡ビジネス(株)	436-0028	掛川市亀の甲1-4-21	0537-24-8311
284	(株)日本旅行浜松支店	430-0928	浜松市中央区板屋110-5浜松第一生命日通ビル12階	053-454-3358
285	富士共和製紙株式会社	419-0202	富士市久沢1丁目1番2号	0545-71-1400
286	丸富製紙株式会社	417-0847	富士市比奈678	0545-38-0103
287	(株)ビッグ富士	417-0852	富士市原田200-1	0545-55-1229
288	下田商工会議所	415-8603	下田市2-12-17	0558-22-1181
289	富士宮商工会議所	418-0068	富士宮市豊町18-5	0544-26-3101
290	島田商工会議所	427-0029	島田市日之出町4-1	0547-37-7155
291	袋井商工会議所	437-0023	袋井市高尾1129-1	0538-42-6151
292	静岡県経営者協会	420-0853	静岡市葵区追手町10-303	054-252-4325

静岡県産業教育振興会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、静岡県産業教育振興会と称する。

(組織)

第2条 本会は、産業教育関係学校、実業団体、実業家及び有志者をもって組織する。

(事務局)

第3条 本会の事務局は、副会長在任の高等学校に置く。

2 事務局の運営に当たっては、静岡県教育委員会が支援する。

3 事務を処理するため、必要な職員を置くことができる。

(部会)

第4条 本会に部会を設けることができる。部会は、農業、工業、商業、水産、家庭及び福祉の6部会とする。

看護系の学校については、福祉部会に属する。

第2章 目的及び事業

(目的)

第5条 本会は、会員の協力により産業と教育の連携を密にし、産業教育の振興を図ることを目的とする。

(事業)

第6条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 産業教育に関する生徒の学習及び研究活動への助成
- 2 静岡県産業教育審議会答申の具現化等への助成
- 3 産業教育に関する教員の研修及び研究活動への助成
- 4 産業教育に功労ある教員及び優秀な卒業生の顕彰
- 5 その他産業教育振興上必要な事業

第3章 役 員

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

会長1人、副会長若干名、理事10人以内、監事2人。

(役員を選出)

第8条 会長及び副会長は、定期総会における会員による選挙によって選出するものとし、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 理事及び監事は、会長が指名する。

3 本会に顧問を置くことができる。顧問は、理事会の推薦により、会長が委嘱する。

(役員の仕事)

第9条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、会議を招集し、その議長となる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長不在のときはその職務を代理する。

3 理事は、理事会を組織し、会務を審査し、処理する。

4 監事は、会務及び会計を監査する。

第4章 会 議

(会議)

第10条 本会の会議を分けて総会及び理事会とする。

- 2 定期総会は、毎年一回（原則として6月）これを開催し、会務の報告、決算の承認、予算及び事業計画、その他重要な事項の審議議決並びに会長及び副会長の選挙を行う。
- 3 会長が必要と認めたときは、臨時総会を開催することができる。
- 4 理事会は、会長が必要の都度これを招集し、総会に提出すべき議案その他本会の運営についての重要な事項を審議する。

第5章 経 費

(経費)

第11条 本会の経費は、会費、寄付金、補助金及びその他をもってこれに充てる。本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会費)

第12条 本会の会費は、次のとおりとする。

- 1 学校にあつては年額3,000円
- 2 産業教育関係学校においては、それぞれの専門に関する学科等の在生徒1人当たり年額、全日制の課程40円、定時制の課程20円で算定した金額
- 3 実業団体にあつては1口年額5,000円
- 4 実業家並びに有志者にあつては1口4,000円

第6章 補 則

(会則の変更)

第13条 本会則の変更は、総会の議決による。

附則

- 1 本会則は昭和42年6月19日より実施する。
- 2 昭和43年6月25日一部改正
- 3 昭和52年6月20日一部改正
- 4 昭和55年5月19日一部改正
- 5 昭和57年5月19日一部改正
- 6 昭和59年5月14日一部改正
- 7 平成4年6月16日一部改正
- 8 平成6年6月8日一部改正
- 9 平成7年6月2日一部改正
- 10 平成9年5月30日一部改正
- 11 平成10年6月4日一部改正
- 12 平成16年6月10日一部改正
- 13 平成19年5月29日一部改正
- 14 平成20年2月1日一部改正
- 15 平成27年7月1日一部改正
- 16 令和7年7月8日一部改正

静岡県産業教育振興会庶務基準

第1条 本会会則第11条の規定により設けられた各部会への助成金は、各部会に属する産業教育関係高等学校全日制の課程の大学科募集定員の総数（A）と、定時制の課程の大学科募集定員総数を2で除して得られた数（B）の和（（A）＋（B））に、次の額を掛けて得られた額とする。なお、総合学科については、募集定員を産業教育関係系列数に応じて人数を配分する。

- (1) 2,000人まで……………40円
- (2) 2,001人～ 5,000人……………30円
- (3) 5,001人～10,000人……………25円
- (4) 10,001人以上……………7円

ア 前項により得られた額に10,000円未満の端数が生じた場合には10,000円未満の数を四捨五入して得られた額とする。

イ 前項より得られた額が80,000円に満たない場合は80,000円とする。

ウ 助成金の交付を得ようとする場合は、申請書を会長あてに提出しなければならない。また、事業報告並びに決算報告を年度末に会長あてに提出しなければならない。

第2条 産業教育に関する各種の調査研究（以下教員特別研究という。）並びに視察員（以下教員産業視察という。）中央会主催の海外産業教育事情研修派遣者に決定した者について（以下海外研修という。）の助成金は次のとおりとする。

- (1) 教員特別研究にあつては1件30,000円
- (2) 教員産業視察にあつては県費規程による旅費および雑費3,000円（上限25,000円）
- (3) 上記助成金の交付を得ようとする場合は、領収書のコピーを添付の上、申請書を会長あてに提出しなければならない。また、事業終了報告書を翌年2月末までに会長あてに提出しなければならない。
- (4) 海外研修にあつては、中央会からの助成金とは別に本会より1件25,000円助成する。（これについては、領収書添付は不要とする。）

第3条 本会の部会並びに在会する高等学校が主管する各種大会のうち、東海大会以上の規模を有する大会の開催に対する補助金は次のとおりである。

- (1) 東海大会等の規模を有する大会の開催にあつては30,000円
- (2) 全国大会等の規模を有する大会の開催にあつては50,000円
- (3) 上記助成金の交付を得ようとする場合は、申請書を会長あてに提出しなければならない。また、事業終了後20日以内に実務報告書を会長あてに提出しなければならない。

第4条 東海地区産業教育振興連絡協議会（以下東海大会）並びに全国産業教育振興連絡会（以下全国大会という。）の参加者のうち次の者に旅費を支給するものとする。

- (1) 東海大会にあつては、会長、副会長、県教委（高校教育課長）、本県発表者、事務局員
- (2) 全国大会にあつては会長、副会長、県教委（高校教育課長）、本県発表者

第5条 産業教育振興中央会賜金記念産業教育功労者表彰規程第5項「その他産業教育に関係あるもので、特に功労のあるもの。」に該当する候補者として、理事会の承認を得て産業教育振興中央会へ推薦する者は、次の何れかに該当するものとする。

- (1) 本会役員（高等学校関係者を除く。）として15年以上在任した者。
- (2) 本会役員として特に功労のあった者

第6条 産業教育功労者及び学校優良卒業生の表彰については、産業教育振興中央会の表彰規程に基づく被表彰者とする。

学校優良卒業生については、1人2,000円の図書券を贈呈する。

附 則

- 1 この基準は昭和59年5月14日より実施する。
- 2 平成18年6月5日一部改正
- 3 平成20年5月19日一部改正
- 4 平成22年5月30日一部改正
- 5 平成24年6月14日一部改正
- 6 平成27年7月1日一部改正

静岡県産業教育振興会備品運用委員会規定

(名 称)

第 1 条 この会は静岡県産業教育振興会備品運用委員会（以下「運用委員会」という）。

(目 的)

第 2 条 運用委員会は静岡県産業教育振興会備品運用細則（以下「運用細則」という）に基づき企業より中古機機類の譲渡または寄贈をうけた産業教育関係高校について、その円滑な利用を図り、産業教育関係高校生の技術・技能の向上を図ることを目的とする。

(業 務)

第 3 条 運用委員会は前条の目的を達成するために、次の業務を行う。

- (1) 譲渡希望の募集
- (2) 査 定
- (3) 希望調査
- (4) 分 配
- (5) その他の目的を達成するための必要な業務

(組 織)

第 4 条 運用委員会は次の委員をもって組織する。

- (1) 工業高校校長 3 名（東中西各 1 名）
- (2) 農業高校校長 1 名
- (3) 商業高校校長 1 名
- (4) 静岡県教育委員会担当指導主事 1 名
- (5) 実業団体代表 1 名

第 5 条 委員は毎年定期総会に選出され、任期は 1 ヶ年とする。但し重任をさまたげない。

第 6 条 運用委員会は次の役員を置く。

- (1) 委員長 1 名
- (2) 副委員長 1 名

第 7 条 役員は委員の互選による。

第 8 条 運用委員会の事務局は静岡県教育委員会におく。但し、当分の間は事務局を別に定める。

第 9 条 運用委員会に査定会をおく。

第 10 条 査定会の組織、業務は運用細則においてこれを定める。

(役員の業務)

第 11 条 委員長は運用委員会を代表し会務を総理する。

第 12 条 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職を代行する。

(会 議)

第 13 条 運用委員会の会議は必要に応じ開催する。

第 14 条 会議は委員長が招集する。

第 15 条 会議の議長は委員長がこれにあたる。

(委 任)

第 16 条 この規程は定めるもののほか、必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

1. この規程は昭和 60 年 6 月 6 日より施行する。
2. 平成 9 年 5 月 30 日一部改正

静岡県産業教育振興会備品運用細則

第 1 条 運用委員会は企業に対し、産業教育関係高校に対する中古機器の譲渡希望を年一回募集する。

第 2 条 運用委員会は企業より応募した物品について査定会をもうけ査定する。

第 3 条 査定会の委員は委員長が委嘱する。

第 4 条 査定会は次の委員をもって組織する。

(1) 産業教育関係高校副校長・教頭 若干名

第 5 条 査定会は次の業務を行う。

- (1) 査定に関すること
- (2) 運搬に関すること
- (3) 修理に関すること
- (4) その他

第 6 条 運用委員会は査定に適合した物品について分配計画を作成する。

第 7 条 運用委員会は分配計画に基づき希望校に貸与する。

第 8 条 譲渡品の運搬、修理、管理等の経費は、静岡県産業教育振興会が負担する。

第 9 条 運用委員会は譲渡品に対し台帳を作成し、学校は分管簿を作成する。

第 10 条 運用委員会は査定会で特に優秀な譲渡品と査定した場合は、静岡県産業教育振興会会長に表彰を具申することができる。

第 11 条 廃棄を必要とする場合は、運用委員会の許可を得て行う。

附 則

1. この細則は昭和 60 年 6 月 6 日より施行する。

2. 平成 9 年 5 月 30 日一部改正

平成 21 年 5 月 19 日一部改正

(注) 第 8 条の譲渡品の運搬、修理、管理等の経費を静岡県産業教育振興会が負担する場合、静岡県教育委員会よりの補助金が必要となる。

1 はじめに

本事業は、産業界と教育界が協働して次世代の産業を担う人材育成を行うことで、産業教育に関わる教員の資質向上及び専門教育の活性化を図り、静岡県産業教育の振興を目的としている。

そこで、本校で栽培しているイチゴ、メロン、秋冬野菜の生産が田原地区で盛んに行われていることから、先進的な栽培技術や経営の取り組みを学ぶため、現地を見学させて頂いた。



図1 マーコのロゴ

2 株式会社マーコについて

株式会社マーコは、愛知県田原市に拠点を置き、イチゴやメロン、トマトなどの青果や加工品、さらに電照菊を中心に栽培・販売する企業である。栽培のほかにも、加工品の販売やキッチンカーの運営、オンライン販売を行い、道の駅やスーパー、ケーキ店などと直接取引する独自の流通スタイルを確立している。販売において「価格」ではなく「商品の価値」で選んでくれるお客様を大切にしている。単に安さを求めるのではなく、品質やこだわりを理解し、共感して購入してくれる方とのつながりを重視している。今回の見学は、生産から流通までを学ぶ生産流通科の教育の一環として、こうした取り組みを理解し、今後の学習に活かすことを目的としたものである。

3 青果物の栽培について

株式会社マーコは、露地栽培と施設栽培を組み合わせ、多品目の農産物を生産している。露地ではキャベツとブロッコリーを約5ヘクタールで栽培し、菊は2.4ヘクタールで栽培している。その他、アボカドやバナナ、トマトなども取り扱っている。近年、菊の需要が年々減少していることから、菊の栽培面積を縮小し、イチゴの栽培面積を拡大している。イチゴは年間を通じて出荷しており、冬季は愛知県で1ヘクタール、夏季は長野県八ヶ岳山麓の標高1,000メートル地域で1.6ヘクタールを使用して栽培している。主要品種は紅ほっぺ、おいCベリー、さがほのか、すずの薫りであり、夏イチゴとしてサマーリリカル、すずあかねも栽培している。冬の一歩果はケーキ店向けが中心で、取引価格は300グラムあたり1,200円である。栽培は高設栽培で、プランターに4株ずつ植え付けている。土壌病害が発生した場合はプランターの土を廃棄することで連作障害を防止している。液肥には伊良湖温泉水を使用し、ミネラル豊富な成分により糖度向上が図られている。



図2 出荷前のイチゴ



図3 温泉水散布

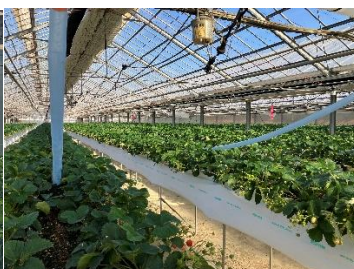


図4 栽培風景



図5 菊出荷調整室

4 加工品の販売

株式会社マーコは、農産物を加工し、道の駅やスーパー、オンラインで販売している。代表商品「いちごバター」は紅ほっぺを使用し、渥美半島たはらブランドプレミアムに認定され、全国に地域の魅力を発信している。イチゴやトマトジュースも「たはらブランド」に認定され、地域農産物の付加価値向上と地域経済の発展に寄与している。生産から販売まで一貫体制で、地域ブランド強化と農業経営の安定化を実現している。

5 キッチンカー・オンライン販売・その他の活動について

株式会社マーコは昨年からキッチンカー販売を開始した。きっかけは1月から3月に開催される「渥美半島菜の花まつり」で「なっちのお店」としてイチゴの直売や加工品販売を行ったことである。イベント販売の魅力を感じ、より多くの場所で新しい出会いを求めて導入した。キッチンカーのデザインは自社制作で親しみやすさを重視し、試行錯誤を重ねて仕上げた。現在は季節に応じた商品を販売しており、夏には冷凍イチゴを使った「削りいちご」、イチゴ飴やイチゴ大福なども提供している。キッチンカーを通じて地域との交流が生まれ、つながりを深める貴重な機会となっている。

オンライン販売にも積極的に取り組んでおり、イチゴやフローズンイチゴ、アボカド、各種加工品を扱っている。写真は自社撮影でサイズ比較や季節感を工夫し、農薬不使用の証明や生産者の顔写真を掲載することで安心感を提供している。説明文は簡潔で読みやすく、商品の特徴や生産者の思いをしっかりと伝えている。こうした取り組みにより、オンライン販売においても信頼性を高め、地域ブランド価値の向上に貢献している。

今回お話を伺った青山大介さんは、地域の農業や田原市の魅力を広く伝えるため、地域のローカル番組やラジオ番組にも出演し、積極的に情報発信を行っている。



図6 トマトジュース



図7 いちごバター



図8 キッチンカー



図9 アボカド

6 本校の現状と取り組み

現在、本校では野菜の授業の一環としてイチゴの栽培を行っており、12月から校内で販売を実施している。栽培に使用している苗は本校で育成したもので、地植えによる栽培を行っている。しかし、近年は連作障害の影響が増加しており、来年度からは水耕栽培への挑戦を計画している。今回の視察を通じて、養液管理や高設栽培などの技術を学ぶことができ、今後の取り組みに活かしていきたいと考えている。また、生産流通科としては、単に生産するだけでなく、流通の授業を通じて「生産者の思いを消費者に伝えること」や「生産物をどのように付加価値を高めて活用するか」を考える必要がある。こうした取り組みを通じて、地域を盛り上げ、魅力を発信する授業を展開していきたい。

令和 7 年度 静岡県産業教育振興会教員産業視察報告

静岡県立田方農業高等学校

教諭 小杉 健作

教諭 持田 楽斗

視察先： 農業 WEEK (J-AGRI TOKYO 令和 7 年 10 月 1 日 会場：幕張メッセ)

視察目的： 最先端の農業テクノロジーおよび環境配慮型資材の現状を把握し、産業教育におけるスマート農業の導入や SDGs に関連した教育活動への知見を得る。

1. 視察内容の概要

今回の視察では、幕張メッセで開催された「J-AGRI」において、スマート農業技術、自動化ロボット、および環境負荷を低減する新しい農業資材を中心に調査を行った。



会場の様子（幕張メッセ）

① 薬剤散布の省力化と安全性を高めるロボティクス技術

Fieldworks 社の小型薬剤散布ロボット「うねまき」は、細かい畝間でも除草や薬剤散布が可能な移動体である。アタッチメントにより散布高さの変更やタンクの増設が可能であり、操作はリモコンによるラジコン感覚で行える。特筆すべきは、マキタ製の汎用バッテリー2 つで約 1 時間の稼働が可能という点であり、環境性能とメンテナンス性に優れている。

本機の導入により、重い薬剤タンクの背負い込みや防護服の着用が不要となる。これにより、身体的負担の軽減だけでなく、薬剤への曝露防止や熱中症対策といった、作業者の健康を守る「人に優しい農業」の実現が示唆されていた。

② 既存農機のスマート化と導入の現実

NST 株式会社の自動操舵システムは、既存の耕運機等にカメラやタブレット、ハンドル、アンテナ等を後付け（約 90 万円）することで、新車購入をせずにスマート化を図るものである。機能面では自動 U ターンは可能だが、自動バックができないため曲がり角での操作が必要になる場合もある。現場担当者との意見交換では、自動操舵システムは海外製が多く、性能差が少ない現状が語られた。そのため、実際の導入にあたってはシステムの性能以上に、アフターサービスや販売店との信頼関係が重要な判断基準になるという、実務上のリアルな視点を得ることができた。

③ 地域資源の利活用と脱炭素型農業

鹿児島県の合同会社 ethicalT は、シラス台地の課題であった保水性の低さを解決するため、地元資源である火山灰を加工した「オリジンジオ (R)」を展開している。これは肥料や農薬に頼らず植物本来の力を引き出すバイオスティミュラント資材であり、環境負荷低減と脱炭素型農業を推進する「みどり

の食料システム戦略」にも合致するものである。また、地元静岡県の株式会社アサギリ（富士宮市）による「アサギリ MIX」は、不要となった有機資源を堆肥化して土壌に循環させる自然型農業を体現している。有用微生物やミネラルを豊富に含む資材を活用し、生態系の回復と安全な作物生産を両立させる取り組みは、本県の産業教育においても重要なモデルケースである。

2. 教育現場への還元と考察

①農業実習における安全管理と働き方改革の提示

「うねまき」のようなロボット技術は、これまでの農業実習における「重労働」「危険」といったイメージを刷新する力を持っている。生徒に対し、技術活用による身体的負担の軽減や熱中症対策の重要性を説くことで、より安全で持続可能な農業の在り方を提示していきたい。



環境保全型の農業製品の展示

②経営的視点と情報リテラシーの育成

自動操舵システムの視察から得た「アフターサービスや人間関係で製品を選ぶ」という実利的な知見は、生徒が将来、経営や資材調達に関わる際の情報リテラシーとして不可欠な視点である。単なるスペック比較に留まらない、産業現場の「選び方」のノウハウを指導に盛り込みたい。

③地域課題の解決と探究学習の推進

シラス台地や富士宮市の事例のように、地域のマイナス要素や廃棄物を「資源」として捉え直し、高付加価値な資材へと転換するプロセスは、生徒の探究学習における最良の教材となる。本県の特産品や地域課題に照らし合わせ、科学的根拠（微生物やミネラルの働き）に基づいた土づくりを学ぶ意義を深めていきたい。

④SDGs の実践教育

有機資源の循環や脱炭素型農業への取り組みを具体的に紹介することで、生徒が地球規模の課題と農業の結びつきを自分事として捉えられるよう指導を工夫する。農業が環境を守り、生態系を整える役割を担っていることを誇りに思えるような教育活動を目指す。

3. まとめ

今回の視察では、小型散布ロボや自動操舵システムによる省力化・安全性の向上、またシラス台地や有機資源を活用した環境配慮型農業の最前線を学んだ。これらの知見を、生徒の安全管理や地域課題を解決する探究学習の指導に活かしていく。

1 はじめに

農業をとりまく環境は、食料自給率低迷、生産者の急激な減少、気候変動など大きな転換期にある。また、少子化の影響により産業人材育成の要である農業高校も大きな課題を抱えている。

2024年「食料・農業・農村基本法」改正を経て、スマート農業技術による生産性向上と地域課題解決が加速しており、持続可能な農業構造の維持及び教育機関での新技術対応が急務となっている。

本研修では、最新の技術モデルや防除技術、データ活用等、農業高校の実習環境改善及び魅力化推進を考慮しつつ、法改正・技術革新・人材育成が三位一体となって進む最新動向を実地に学び、持続可能な農業及び農業高校の在り方と教育展開の指針を得ることを目的とする。

2 視察内容

(1) AGTS 農業展視察（令和7年7月11日） 於：愛知県国際展示場

本農業展は、「アグリビジネス・トレードショー」の略で、2025年に東海地域で初開催された関連産業従事者向け商談・課題解決型展示会である。「水田・畑作」「畜産・酪農」「園芸」「スマート農業」の4テーマで、生産力向上や経営安定化に繋がる最新技術・製品・サービスが展示された。

ア 視察①「スマート農業関連」「園芸関係」

最新施設・装置を中心に視察を行った。「環境制御装置」「散布ドローン」「自動追尾運搬車」「自動収穫機」など実装されている技術が多く見られた。材を利用できる「温室内ミスト装置」や「温室遮熱塗装」、「生物由来物質防除資材」など関係科目でも活用できる園芸資材も多かった。



図1 AGTS 農業展4分野

イ 視察②「食品関係」「研究・学術関係」他

「食品乾燥機」「急速凍結機」「レトルト釜」など、現在の食品製造でも活用できる機器類が多く展示されており、デジタル対応や6次産業化に展開が可能となるものが多い。暑熱対策として「ファン付き作業着」「緊急用冷却スプレー」など熱中症対策も充実しており、事業者による熱中症対策が罰則付き義務化された現在、実習作業でも配慮すべき状況であることを感じた。名古屋大学の「イネによるしショ糖生産」、愛知県農業関連高校展示も参考となった。

ウ まとめ

全体を巡回できる展示規模であり、高校生が視察しても学ぶことができるレベルであった。実際に近隣高校が来場していたことを聞き、本県生徒にも目にして欲しい展示内容であった。

(2) 農業 Week 視察（令和7年10月3日） 於：幕張メッセ

本農業展は日本最大級の農業・畜産の総合展示会で、農業資材、スマート農業製品、畜産関連製品、6次産業化の技術・製品などが集まる国際展示会であり、最新技術の導入やビジネスマッチング、情報収集、新規就農相談ができる15回目を迎えた大きなイベントである。首都圏及び九州地区など年数回開催され、農業関係者や新規参入検討企業など3万人以上が来場している。同会場では、関連展示会（TOOLJAPAN等）も開催されるほど大規模であり、関係産業も総合的に視察することができた。

ア 視察①「国際スマート農業 EXPO、農業脱炭素・SDGs EXPO」

ヤンマーや三菱、NTTなど大手企業からスタートアップ企業まで多くの出展があった。大規模農業（農業法人等）に向けた展示が多いため、コストが高く学校向けのシステムは少な

いが GPS を活用したトラクター自動制御システムや薬剤散布用ドローン、自動草刈り機、環境制御装置、水耕栽培（植物工場）など今後の日本農業が進めるべき先端技術や新興企業の展示が集結しており、教科指導上知見を得るには集約された良い機会となった。



図2 農業 Week
展示一覧

イ 視察② 「農業資材 EXPO、ガーデン&アウトドア EXPO、TOOLJAPAN」

環境配慮素材や機能性肥料、微生物資材など「みどりの食料システム戦略」で求められている関連資材が多く見られた。海外製展示ブースが多く、出展社も半数以上がアジア関係であったことが印象深かった。食品加工関係や、新品種（耐病・耐環境）、アクアポニクスなど探究活動の題材となる出展も参考となった。

TOOLJAPAN では、機能性ウェア（冷夏素材・難燃素材、遮熱服等）や、工具類（デジタル対応）など、教育現場においても活用したいものが多く見られた。

ウ まとめ

日本最大級の展示会であり、視察に5時間超費やしたが全体を回ることができなかった。国際的なブースも多く、展示会最終日午後には撤収された展示も多かった。



図3 AGTS 農業展



図4 農業 Week 会場



図5校内共有資料

3 考察

近年のスマート農業技術は加速度的に進んでおり、異業種からの参入も増えている。この流れは国際的なものであり日本の優位性があるわけではないことが今回の視察で理解できた。国はスマート農業技術活用促進法を施行し（令和6年）、「すべての担い手が2025年までにデータ活用農業を実践する」とされたが、農業高校の施設・設備は老朽化が進み、一部スマート技術が導入されたものの運用面で課題が多く、実際の指導ではその進度に知識、技術、経験の面で追いつけていない。行政からのサポートも少ない中、生徒指導しなければならない現状にある。

本研修の機会をいただき、あらためて指導者の知識・技術更新の重要性を感じることができた。研修後、校内で事例報告及び100社以上の資料共有を行ったが、より多くの教員が研修に参加できる環境づくりも大切であると感じた。

このような展示会は、生徒が見学に訪れるだけでも高いレベルの学習効果がある。出展者との情報交換から、農業高校への出張講義なども可能であると知った。県としての戦略や人材育成に関する長期的視野も明確に把握できていないが、社会の進展に合わせ、常に学ぶ姿勢を忘れず、産業人材育成および学校魅力化（DXハイスクール等）を検討していきたい。

最後に、静岡県産業教育振興会様、同会に御賛同いただいている関係企業の皆様には、貴重な研修の機会をいただき深く感謝いたします。

令和7年度「静岡県産業教育振興会教員産業視察」報告書

NO. 4 区分 商業

静岡県立浜松商業高等学校

教諭 木下 幹比呂

教諭 平野 隆久

1. 見学地

(1)CIC Tokyo (東京都港区虎ノ門)

Cambridge Innovation Center

(2)JETRO 浜松 (浜松市中央区東伊場)

日本貿易推進機構

(3)EY 新日本有限責任監査法人浜松事務所 (浜松市中央区板屋町)

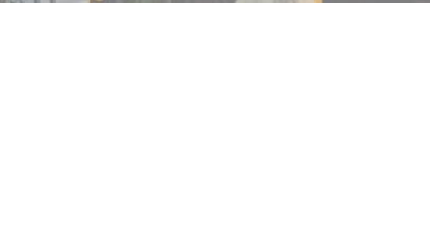
2. CIC Tokyo

CIC Tokyo は虎ノ門ヒルズ 15、16 階にある日本最大級のイノベーションセンターでスタートアップを中心に業種の枠を超えた 350 社が入居している。施設内には、オープンスペース、ミーティングルーム、カフェ、プライベートオフィスルームなどが併設されている。

利用者の目的は登記ができるレンタルオフィス、コワーキングスペースである。利用者の 20%が外国人で、日本語が話せる外国人が多く、コミュニケーションが取りやすい環境がある。スタートアップを目的とした利用者のみならず、大手企業は、新規事業や連携先の開拓、自治体は PR などに活用するなど、多くの企業や団体が集まる空間をビジネスに活かそうとオフィスを設けている。コワーキングスペースの利用は 1 ヶ月 9 万円から利用できる。大学生が利用する場合もあるが、これまでに高校生が 1 名利用していた実績がある。

レンタルオフィスやコワーキングスペースの利用以外に、イベントを通じた利用者同士のつながりを支援したり、スタートアップに関する支援プログラムを 20 近く提供したりしている。

訪問日当日に案内をしてくださった岡山様は、日本出身でニュージーランドの高等学校を卒業した方だったが、高等学校で CIC のような雰囲気での起業を体験する授業を受けた経験があり、早い時期から多くの人とつながることで多くの知識を得たり、人と共同して行うことを学べたりできると話されていた。



見学した感想として、施設の空間がクリエイティブな雰囲気で、そこにいる人々が前向きな表情かつアクティブに何かに取り組んでいることを感じた。人々は、デスク周り含め、オフィスには紙媒体はほとんどなくデバイス1つでタスクを行っていた。

3. JETRO 浜松

JETRO は日本からの海外展開を支援する公的機関であり、静岡県内には静岡と浜松に2カ所拠点を構えている。JETRO は、国内に事業所があるだけでなく、海外56カ国に76の事務所を構えている。現地には日本人の駐在がおり、現地の情報を収集している。収集した情報はJETROのウェブサイト定期的にアップロードされている。

商業の設置科目にはグローバル経済やビジネスマネジメント、ビジネス法規、マーケティングなど貿易に関連した内容が含まれている。新聞やメディアを通じて海外のビジネス事情は国内に比べて情報が少なく、授業を創造する立場にある教員も情報が入手しづらく、グローバル人材を育成するために情報が不足する場合がある。指導する教員が海外に関する情報を収集するのに有用な情報源になると感じた。

今回の訪問理由のもう1つに、海外と関わる仕事をきっかけである。私は、どうすれば生徒が海外について前向きに捉えるようになるかを考えながら日々授業づくりを行なっている。今回、説明して下さった杉山様は、海外旅行に行った際、日本よりも訪問国の技術や製品、建物などが優れていると感じた時に、日本をもっとより良くしたいと思い、海外に関わる仕事がしたいと感じたようである。海外の情報を多く生徒に提供しながら、日本と海外を比較できる機会を与え、授業で考える時間をもうける必要性を感じた。



4. EY 新日本有限責任監査法人浜松事務所

EY 新日本有限責任監査法人浜松事務所は、25名の公認会計士が在籍する監査法人である。本校の卒業生も複数名在籍しており、説明して下さった所長の角田様は、商業高校を卒業しており、専門高校を肯定的に評価してくれていた。

監査業務も日々変化しており、特に海外展開する企業の監査業務は、現地の監査法人と連携を取りながら行う必要があること、AIを活用した監査手続やビジネスリスクに関する情報収集を行い、より効率的で質の高い監査業務を目指しているとのことであった。

本校を卒業した生徒が大学や専門学校へ進学し、公認会計士資格を取得し、監査法人で活躍していることは専門高校が社会に貢献できる人材を育成している成果であると感じることができた。



1. 視察の目的

我が国は豊かな自然を背景に、ユネスコ無形文化遺産である「和食」をはじめ、地域の風土を生かした多様な伝統食文化を築いている。しかし近年、若者世代を中心にこれらの知識や技術の継承が危ぶまれており、第4次食育推進計画（令和3～7年度）では、郷土料理や伝統食材への関心と理解を深め、次世代へ継承することが求められている。そのため、学校教育においても、地域の食文化やその歴史的・文化的背景を学ぶ機会の提供を促進する必要があると考えられる。

現在、高校の家庭科教育においても、この食文化の保持・継承は大きな課題である。他方で、伝統文化は形や価値を変えながら、現代のビジネスの一部としても機能している。本校では、家庭科で「食」を、商業科で「ビジネス」を教えているが、これからの時代は両者を結びつけた教科横断的学習が必要であると考えられる。

視察先の「カネサ鯉節商店」は、奈良時代には税金として納められていたかつお節の原型「塩鯉（しおかつお）」の伝統製法を守り続けている。同社は伝統を維持するだけでなく、現代のニーズに合わせた加工品開発によって、製造量を年間10倍（400kgから4t）に伸ばすなど、食文化とビジネスを結びつけている。本視察を通じ、地域の伝統をいかに教育活動に取り入れ、ビジネスの視点を持って次世代や世界へ繋げていくかを学ぶことを目的とする。

2. 視察の様子（カネサ鯉節商店）

本視察では、塩鯉とかつお節の歴史や製造工程について、以下の4つの貴重な知見を得ることができた。①歴史と精神性、②伝統製法と気候、③伝統製法の現場、④ビジネスへの展開である。

①について、カツオは、第40代天武天皇の時代に食肉禁止令が出された際、貴重な栄養源として重宝された。伊勢神宮では、1500年前から毎日欠かさずかつおが供えられており、日本人の精神文化と深く結びついている。②について、塩鯉の製造には、塩漬後に2週間ほど乾燥させる工程があり、そこには15度以下での乾燥という気候条件が不可欠である。また、本節の製造では、カビを利用して内部の水分を抜き、旨味を凝縮させる「カビ付け」を行うことで、長期保存が可能となる。③について、店内では、藁（わら）に巻かれ、お正月飾りとしても用いられる伝統的な塩鯉の姿を拝見することができた。また、製造現場では、伝統の「手火山式（てびやましき）焙乾製法」などにより、せいろに並べられ丁寧に作られている様子を確認した。④について、2008年頃から、小分け包装やお茶漬セットなどの商品開発に注力されている。その結果、地元の素材を活用した商品が受け入れられ、生産量の大幅な増加に成功している。



図1 藁に包まれた塩鯉（正月飾り）

3. 伝統料理「塩鯉」を用いた高校における体験実習

本校で開講されている「フードデザイン」において、伝統食材である塩鯉への理解を深めることを目的に、「塩鯉うどん」の調理実習を行った。塩鯉うどんとは、塩鯉を生産する三社のうちの一つである「カネサ鯉節商店」の五代目、芹沢安久（せりざわ やすひさ）氏らが、現代の食生活に合うようレシピ開発に取り組み、考案した料理である。本実習では、この塩鯉うどんを高校生自身が調理することにより、新たな形での伝統文化継承の一助としたいと考えた。

塩鯉うどんの主な材料は、うどん、塩鯉の焼き身、ごま、海苔、削り節、刻みねぎ、温玉、出汁醤油であり、汁なしのうどんなので、塩鯉さえ入手できれば、比較的簡単に実施できる実習内容となっている。この点は、学校現場において継続的な授業実践を行う上でも大きな利点であるといえる。

本実習は、単なる調理技術の習得にとどまらず、「だし」をキーワードとした五感教育の一環として位置付けている。塩鯉を用いた塩鯉うどんの調理に加え、かんなを使ったかつお節の削り体験を取り入れることで、香り、音、手触り、味といった五感を通して、本物の味や伝統技術に触れる機会とした。これにより、生徒が食文化を知識として学ぶだけでなく、体験を通じて深く理解する学習へとつなげることが可能である。



図2 体験実習の様子

4. 今後の課題と展望

現在、日本各地ではインバウンド需要を背景に、体験を重視した観光・学習活動が広がっている。特に食文化の分野では、単に「食べる」だけでなく、背景にある歴史や製法、文化を五感で体験できる高付加価値の取り組みが注目されている。代表例として、静岡県中部で展開されている「お茶ツーリズム」が挙げられる。これらの取り組みでは、茶畑の見学に加え、茶工場での蒸し・揉み・火入れといった製造工程の体験、さらには茶商における拝見体験を通じて、茶葉の香りや味、色の違いを比較しながら、日本茶の奥深さを五感で味わうことができる。また、近年では海外からの旅行者を対象とした「ショップオーナーと巡る日本茶の旅」といった企画も行われている。

このような事例を踏まえると、塩鯉においても同様に、「だしツーリズム」といった体験型の企画を展開する可能性があると考えられる。例えば、塩鯉の製造工程を学ぶ体験や、かつお節削り体験、複数のだしの飲み比べ、塩鯉を用いた料理の試食などを組み合わせることで、塩鯉の魅力を総合的に伝えることができる。地元では高額と感じられる価格設定であっても、インバウンドを対象とすることで付加価値を高めた価格設定が可能となり、結果として伝統産業の安定的な収益確保につながると考えられる。このような取り組みは、伝統文化を守るだけでなく、次世代へと継承していくための持続可能な仕組みづくりとしても有効であり、地域産業と教育、観光が連携した新たな展望として期待されると考えられる。

文化服装学院での家庭科の授業で活用できるユニセックスなシャツ製作

御殿場高等学校 生活創造デザイン科
浅井 彩乃

1 はじめに

本校は、静岡県内公立高校唯一の家庭に関する専門学科であり、令和7年度入学生から、主に食物・保育・被服の3つの基礎を学んだ後、自分の進路や興味関心に合わせて一つの分野を選び、学びを深めていくカリキュラムとなっている。食物分野では専門学校の講師やプロの方を招いて実演をしていただき、調理の技術と知識を学ぶ。保育分野では、近隣の保育所へ出向き実際に園児と触れ合うことで学びを深める。被服分野では、静岡デザイン専門学校でアパレルCAD体験をさせていただき、知識を得ている。しかし、被服分野は生徒へ教えるにあたって教員側が技術を身につけたいと思っても、指導者がいない、機会がない、指導をしてもらうためのまとまった時間がとりづらいという現状がある。そのため、文化服装学院の家庭科教員技術研修会夏季公開講座へ参加した。

2 文化服装学院とは

日本で最初のファッション専門学校であり、文化服装学院の歴史は、大正8年(1919年)まで遡る。当時はまだ、着物が主流だった時代に生まれた小さな洋裁学校が始まりである。1923年には、日本最初の服装教育の学校として認可され、以降、約100年にわたって日本のファッション教育の中心的役割を果たしている。コシノジュンコ、高田賢三、山本耀司など、文化服装学院を卒業したデザイナーたちは日本のファッションを世界トップレベルまで押し上げ、その第一線で活躍し続けている。

3 家庭科教員技術研修会 夏期公開講座について

小・中・高等学校の家庭科担当の教員対象の講座であり、家庭科教育の充実発展を目指す目的で毎年夏に開催される夏季限定の集中講座である。今回は51回目の講座となり、男女兼用のユニセックスなシャツが題材である。基本の縫製テクニック、台衿付きシャツカラー、前見返しを利用した三つ折り仕立ての仕様を学ぶ。

4 タイムスケジュール

1日目 9時30分～16時(昼食1時間含む)

2日目 9時30分～14時(昼食1時間含む) 15時～16時(作品発表会)

5 規格・サイズ

生地 2.5m(コーマストライプ・ブルー)

Mサイズ 着丈 68cm / 背肩幅 54cm / バスト 120cm

ウエスト 120cm / 裾回り 120cm / 袖丈 28cm



6 ユニセックスなシャツ製作

被服製作技術検定洋服準1級の指導のために、フラットカラーでセットインスリーブのデザインは自分で練習をしたが、男子生徒に対応するために台衿付きのシャツカラーでシャツスリーブを練習する必要があるため、今回の講座は非常に為になった。製作は、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン台が一人1台ずつ使用できる環境の中で、洋服の



製作した衿と残りのパーツ

自動裁断機で裁断されたシャツのパーツの状態から1日半で完成までもっていった。オンラインで参加されている方もいるため、はじめに一つの部屋に集まりデモンストレーションを見てから製作に取り掛かった。今回私が選んだシャツには、受講者6人に対し指導者が2人ついてくれており、困ったり相談したりしたいときにすぐに対応してもらえた。また、デモンストレーションとは別に作り方の写真付き冊子といつでも見られる実物見本が説明付きで用意されており、分かりやすさを実感するとともに自分の授業の参考になった。縫いはじめはどこから縫うのが良いか、衿や袖などの立体部分のアイロンかけ、間違えやすい部分等について知ることができた。ボタンホールとボタン付けは専用ミシンで簡単につけることができ、非常に驚いた。さらに、今回のシャツに加えられるアレンジの、様々なレパートリーを教えていただいた。その中で、製作の余剰時間を考慮して簡単に取り入れられる、「レースを縫い付ける」とことと、衣服のウエスト、袖口、裾などにひもを通す「ドロースtring」の2つを取り入れた。ドロースtringは初めて取り組んだが、思っていたよりも簡単に作ることができたため、生徒にも還元したいと思った。



実物見本



衿のアイロン



前身頃にアレンジ



完成したシャツ

7 最後に

2日目の午後には、受講者が各々製作したシャツの発表会が行われた。シャツの生地は4種類あり、似たようなデザインであっても生地が違えば雰囲気が変わり、ドロースtringも、入れる場所や長さが違えばシルエットが変わるため、全く違うものに見えた。一つとして同じものはなく、参考にしたいものが沢山あった。また、私を含め北陸や関西などの県外から参加している方も複数おり、文化服装学院の先生方だけでなく他県の先生方とも情報交換ができ、非常に為になった。



ひもを使用した他のアレンジ

1 株式会社 HUIS.

(1) 株式会社 HUIS. の概要

株式会社 HUIS. は、浜松市にあるアパレルブランドである。伝統ある遠州地方で生産される高品質な遠州織物生地から、すべての商品を製作している。また耕作放棄地である棚田を利用して綿花を育成・収穫し、遠州織物製品として販売する“久留米木の棚田プロジェクト”に取り組むなど、SDGsにも貢献されている。

(2) インタビュー概要（HUIS. 本多様、西野様より）

遠州地区は、かつて綿花栽培及び機械づくりが盛んであり、全国で最多のシャトル織機が今も存在する。一般的な織機は、効率性が重視され、太い糸を高速で低密度に生地を織るが、シャトル織機はきめ細かな糸を低速で超高密度に織り上げていく。そのため出来上がった生地は、軽く、柔らかく、耐久性が高く仕上がる。実際の糸や、織られた生地を拝見したが、肌触りや風合いが格段に違うことを体感した。しかし、シャトル織機は既に製造中止となっており、今ある古い機械をメンテナンスしながら使用している。久留米木の棚田プロジェクトでは、地域の団体と協力し行っている。国産綿の割合は現在ほぼ0%だが、それを1%にしたい、という思いで取り組んでいるそうだ。

(3) まとめ

丁寧に、技術と愛情を注がれて作られていることが伝わった。高校生に伝えたいことを伺うと、来年もこの服は着るか？と自分に問うてから購入してほしい、購入するモノはどこで誰が作っているのか？という関心や疑問を持ってほしい、とおっしゃっており、伝えていきたいと強く思った。

2 株式会社キシル

(1) 株式会社キシルの概要

株式会社キシルは、浜松市で家具・雑貨の企画製造販売をする会社である。素材や塗装の安全性の高さにこだわり、「からだにいい家具」という新しい価値で「オーガニックな家具」を作っている。自然を壊さないサステナブルな材をつかった家具でのすこやかな暮らしの実現を目指している。

(2) インタビュー概要（代表取締役 渥美慎太郎様より）

日本は“違法木材の温床”と言われるほど、違法な手段で伐採された木材を使った家具があふれている現状がある。欧米では責任のある森林管理によって生産された林産物に付与される“FSC 認証”が普及しているが、日本ではこの認証の知名度は低く、国内外の環境破壊などに加担している。このような現状を変えたく、キシルではFSC 認証だけでなく、“GOOD WOOD”マークを作り、植林木での家具の製造を行っている。また、大量生産・コスト重視のなか、接着剤や化学塗料を多用した家具によるシックハウス症候群で悩む人も多くいる。そのためキシルは、無垢の木、低ケミカル、植林木（GOOD WOOD）がそろった「オーガニックな家具」を製造、販売している。

(3) まとめ

違法伐採の現状や化学塗料の害、家具の製造工程など、木材製品に関する様々なことを学んだ。“天然木”などの表示を見極めること、消費者が勉強して商品を購入する必要があることを強く感じた。高校生には、どんなモノも、自分の意見を持って選んでほしいと話されていた。

3 企業主導型保育施設 カンガルーム掛川

(1) カンガルーム掛川の概要

資生堂掛川工場の敷地内に 2017 年 11 月に開園した企業主導型の保育施設である。資生堂掛川工場に勤務する社員の子育てと仕事のより良い両立を実現し、また地域にも開放され、地域と工場が交流する保育の拠点となることを目指している。運営は “KODOMOLOGY 株式会社” が行っている。

(2) 施設見学、インタビュー概要（施設長 小野田優希様、連携推進員 宮澤賢様より）

一般的な保育施設と比較し、園児に対する職員の人数が多く、園児一人一人に対応した保育がされていた。発達障害児など、個別に配慮すべき幼児も年々増加傾向にあるが、元々ゆとりを持った職員数で保育をしているため、加配の職員等をつけることなく、インクルーシブ保育を実践できているようだ。また外国籍の子どもも多く入園するため、自然と子どもたちに多様性を受け入れる土壌が育まれている。昨年 11 月からは、2 週間程度こどもが保育園に通い、親は働きながら多様な地域に家族で滞在できる、こども主役の暮らし体験である“保育園留学”を開始した。これにより、国内外の多様な親子が月に 1～2 組入園し、職員もとても良い刺激を受けていると話されていた。

(3) まとめ

インクルーシブ教育が重要視されるなか、その実践例を拝見できた。企業主導型保育施設ならではの研修や規則なども、大変興味深いものであった。保育園留学などの新しい取り組みを実践し、既存のやり方にとらわれずに保育を行うことは、学校教育現場でも見習いたい点だと感じた。

4 有限会社 栄醤油醸造

(1) 栄醤油醸造の概要

1795 年から 200 年以上続く、醤油醸造元である。「丸大豆・小麦・塩」の原料を活かした天然醸造、木桶仕込みによる醤油造りを今なお続けている。高度経済成長期に伴い、醤油業界では化学成分を利用したり、酵素を添加し発酵時間を短縮したりする技術が発達した。しかし、醤油本来の価値を大切にしたいという思いから、昔ながらの醤油造り続けることを今なお選び続けている。

(2) 施設見学、インタビュー概要（代表取締役 深谷允様より）

とても古い建物で、実際に木桶に仕込まれている醤油を拝見した。2005 年に耐震補強工事を行ったが、鉄筋コンクリートなどによる工場にはあえてせず、あくまでリフォームにとどめて古い柱や土壁を残すことで、蔵に棲みついている菌を守ることを選んだそうだ。しかし、建物の老朽化、生き残りをかけた海外輸出のために、現在建て替え工事を行っている。棲みついた菌（蔵ぐせ）は途絶えてしまうかもしれないが、木桶仕込み、天然醸造による醤油づくりのこだわりを貫き、本物の醤油を日本のみならず世界にも広めていくことを目指しているようだ。しかし、その栄醤油に欠かせない木桶の生産が途絶える危機にあるという。そのため、全国の木桶仕込みの醤油屋 28 社と連携し、“木桶復活プロジェクト”にも取り組まれている。

(3) まとめ

200 年以上の歴史を持つ建物、木桶、醤油づくりを拝見でき、大変感動した。食品に限らず、消費者として購入する商品がどのように造られるかを、自分の目で見ることの大切さを改めて感じた。調理実習などで使用したり、授業で紹介したりと、高校生が地元で作られる本物の醤油を知る機会をこれから作っていききたい。